

第 3 日 (3 月 8 日)

3 村松幸昌 議員 (質問方式 一問一答)

答弁を求める者 市長

1 にぎわいと交流のまちづくりについて

(1) にぎわい拠点として位置づけられた焼津駅周辺について伺う

焼津駅前再開発事業 (A-1 街区) と、駅前商店街周辺におけるにぎわいのまちづくりについて伺う

(ア) 準備組合が発足し、再開発事業 (A-1 街区) の具体化に向けての、市の取組について伺う

(イ) A-1 街区再開発事業に期待するにぎわいへの効果について伺う

(ウ) 今後、焼津駅から商店街そして、新庁舎までの間における将来イメージをどのように見据えて進めるのか伺う

(2) 地域資源を活用した観光交流事業について伺う

地域資源を活かした取り組みを伺う

(ア) 観光交流客数の増加に向けた地域資源の活用状況を伺う

(イ) 静岡ディスティネーションキャンペーンを契機とした取り組みと観光プロモーションについて伺う

(3) 焼津黒潮温泉事業の現状と今後について

ア やいづ黒潮温泉事業の現状について伺う

これまでの、修繕経過と現状について伺う

イ 継続的な源泉の安定供給に向けての今後の対策を伺う

(ア) 既存源泉施設の適切な管理について伺う

(イ) 新規井戸採掘への検討状況を伺う

(ウ) 源泉井戸の管理方法等の今後の方向性について伺う

2 焼津市の景観まちづくりについて

(1) 焼津市景観まちづくり条例が本年 1 月から施行されたが、重点地区の指定に向けての状況を伺う

浜通り周辺地区の景観まちづくり重点地区計画の策定について伺う

(ア) まちづくり協議会の開催状況等について伺う

(イ) 本計画の策定状況と今後の流れについて伺う

(2) 景観計画や現在策定中の景観まちづくり重点地区計画に関して問題となるような空き家の状況について伺う

ア 良好な都市景観の阻害要因となる可能性のある空き家の現状について伺う

イ 阻害要因となる可能性のある空き家に関して市の認識とその対応を伺う

(3) 自然環境の保全における状況を伺う

国が奨励する再生可能エネルギー発電設備等への対応を伺う

(ア) 市内における大規模な太陽光発電設備等の設置状況を伺う

- (イ) 太陽光発電設備等の設置申請時における行政指導について伺う
- (ウ) 再生可能エネルギー発電の設備設置に対する市の考え方を伺う
- (エ) 規制誘導の必要性など今後の対策について伺う

4 石原孝之 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求める者 市長

1 新しいアクション！まちおこしで焼津市に活力を！

- (1) 今年度、初めて開催されたみなとまつり前夜祭、クリスマスを彩る花火、新成人を祝う花火など新しい取組について

焼津市と大井川町の合併10周年記念の催し物として初めて開催された各1000発の花火。みなとまつり前夜祭、クリスマスの夜、新成人を祝うために打ち上げられました。近年、花火大会による経済効果も広く知られています。実施する地域へ泊まったり、近くで鑑賞することのできる有料席を購入したり、飲食する方も増えるため経済的なプラスの効果も見込めます。参考情報として関西を代表する花火大会のひとつ、「なにわ淀川花火大会」は、運営費、約2億9000万円その経済波及効果は約11.6億円が見込まれているそうです。花火が放つ輝きは一瞬ですが、その瞬間を何万人もの人々と共有できる喜び、心に残される感動は一生ものの価値だと私は思っています。しかし、たくさんの方が来るということで警備員の配置や安全への配慮で経費がかさむという反面もあります。そこで泣く泣く開催を取りやめる地域もあると聞きます。花火大会開催は地域を活性化するためのイベントとしての側面も大きいのだと思います。今回、焼津の花火の開催を知らなかったのが驚いた。真冬の花火大会はとても綺麗だった。普段の花火大会は人が混雑しているが今回はゆっくり楽しめた。など意見は様々出ていました。私自身も新しい取組には評価しております。この件に関しては市民からも前向きな意見が多かったと感じております。

そこで以下、3点を市長にお伺いしたいと思います。

- ア 焼津市は水産加工という大変大きな主軸があります。今後、将来を見据えて本市が持続可能な町として永続的に発展していくためにはイノベーションという行動を起こすことは、必要不可欠であります。そして、イノベーションの説明をしますとイノベーションとは幅広い革新（新機軸）のことをいいます。変化して進化していく焼津市を市民は望んでいるように感じます。今回の新しい花火の打上げも一つのイノベーションになると思いますが、この取り組みの背景や狙いは何か伺います
- イ 花火のイベントを機に夜店や民間団体とのイベント共同開催や地域の小売店や飲食業、近隣ホテル利用と連動するような開催内容を盛り込み、単発ではなく、よりボリュームのある花火を開催するのであれば、町の活性化にも繋がります。市長のお考えを伺います
- ウ ほぼ毎月のように花火大会を開催して成功事例である熱海市のように特徴ある観光の一環としてやってみたらどうでしょうか？市長のお考えを伺います
- (2) 地域おこし協力隊整備事業に関して

本市のPR活動のために他県からIターンで暮らし始めている交流人口拡大支援担当の隊員と移住支援担当の隊員のお二人がいらっしゃいます。若い力と発想

や行動力、またそれぞれの得意分野で本市のPR活動に大変尽力されています。釣りガールで全国的に有名な交流人口拡大支援担当の隊員は、SNSでもフォロワー数も多く情報発信ではとても影響力があります。初心者向けや子ども向けに釣り教室を定期的に開催し、初めての方でも楽しめる釣りを教えたり、小学校や中学校でも夢を語る授業を積極的にされています。移住支援担当の隊員は、熱意溢れる行動力で焼津市にある各企業を回り、クラウドファンディングを成功に導きました。カツオハガキ復活をさせ全国に魚の町焼津市をカツオハガキを通してPRしてくれました。今でもたくさんの方々がカツオハガキを会社やお店に貼ってくれている光景を目にします。

地域おこし協力隊の活躍を深堀りをするために2点お伺いします。

ア 任命してからお二人の活動効果を踏まえて今後の課題についてお伺いします

イ 市長は更なる活躍を期待するためにどのような施策をお考えでしょうか。お伺いします

(3) モンゴル国とのホストタウンに関して

本市は平成27年8月にモンゴル国とレスリング競技、平成28年5月にパラリンピック陸上競技の事前キャンプ地に関わる覚書を結んでいます。また焼津市ホストタウン推進協議会が東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたモンゴル国との交流に焼津市民が一体となって取り組むことで、市民のモンゴル国に対する理解と応援気運の醸成を図り、本市とモンゴル国との絆を深めることを目的として平成29年5月19日に設立されました。この協議会は市内等の36団体の代表者を委員としています。そして来年度は、東京2020オリンピック・パラリンピック大会本番の一年前となる年です。全市民挙げて盛大に盛り上がっていきたいです。平成31年度の予算の中にモンゴル国の“ナーダム祭”や“クリスマスコンサート”を計上されています。イベントで焼津の出店者も予定しているのであれば、モンゴル国に困んだ商品を1つは入れてもらうことを出店の条件に盛り込んだり、イベントを通してアイデアと想いをモンゴル国に届けたらどうでしょうか。そこで3点を質問したいと思います。

ア 来年度、予定されている2つのイベントを市民にどのようにPRしていきますか。お伺いします

イ ホストタウンとしてモンゴル国とのどのようなビジョンを持って今後も長く続く友好のかけ橋を思い描いていますか。お伺いします

ウ イベント開催以外でのホストタウンとして市民をもっと巻き込む具体的なアイデアをどのように考えているかお伺いします

2 西焼津周辺の活性化につながる整備推進を求めて

西焼津駅周辺に関して

焼津ダイヤモンド構想は、焼津市の諸計画（都市計画マスタープラン、中心市街地活性化基本計画、新庁舎建設基本構想、焼津市新病院整備基本構想）との整合を図り、将来ビジョンとして、まちづくりの方針を示しております。本構想は、急速に進む少子高齢化や人口減少に対応するため、これからのまちづくりの基本的な考え方である「暮らしに必要な様々な機能の拠点となる場所を効率的かつ、適正に配置をしたまちづくり」を進めるため、市内に「8つの拠点」を設け、この拠点にお

ける機能や、「人・海・山・水・文化・経済・情報」という焼津の多様な地域資源(=ダイヤの原石)を磨き、活用・連携・循環させることにより、新たな魅力を創造し、「住み続けたい、住んでみたい、行ってみたいまち」を念頭に、持続可能な地域経営を実現し、市民が輝かしい生活を安心して暮らせるまち(=ダイヤモンド)にしていくことを目標としています。西焼津エリアでは焼津総合グラウンドやシーガルドームのスポーツ機能や、交通拠点である西焼津駅の資源を活かしたくらしの拠点があります。また近年、立地や交通の便の良さから豊田地区は本市で人口が増加しており注目の地域であります。それらを踏まえた内容で2点伺います。

ア 西焼津駅前のイルミネーション整備について

静岡県中部地域の5市2町(静岡市、島田市、藤枝市、焼津市、牧之原市、吉田町、川根本町)5市2町の広域連携の中身を調べるとイルミネーション事業があります。藤枝駅、焼津駅、島田駅、六合駅もイルミネーション事業の中で整備されています。まだ手付かずの西焼津駅前へイルミネーションを積極的に設置すれば駅で迎えを待つ人たちの心を温めてくれたり、西焼津駅前が明るくなり、インスタ映えスポットなどがあればたくさんの方に西焼津を知っていただける機会にもなります。そして他の市の方や全国からシーガルドームに来られる方々に対してもとてもいい効果があります。西焼津駅前のにぎわいづくりのため、イルミネーションの実施に関して市長のお考えを伺います

イ 豊田地区の公園整備について

豊田地区は世帯数が増えています。特に若い世代が増えているため、小さな子どもでも遊べる公園があれば、ベビーカーを押して遊びに行けます。豊田地区の公園整備に関して市長のお考えを聞かせてください

5 須崎 章 議員 (質問方式 一問一答)

答弁を求めるもの 市長

1 都市計画道路について

(1) 都市計画道路の整備状況等について

ア 多くの都市計画道路は高度成長期に人口などの増加を前提に計画され、整備されてきましたが、現状の整備状況を伺う。

(ア) 市内の都市計画道路全路線と都市計画マスタープラン地域別構想における焼津地域内の都市計画道路の整備状況を伺う

(イ) 道路ネットワークの渋滞箇所と、その緩和対策について伺う

イ 豊田地域は、市内で唯一人口・世帯数ともに経年的に増加傾向にある、経済効果等を鑑み早期実現が必要と考えるが、現状及び今後の予定を伺う。

(ア) 都市計画道路豊田南線(市道三ヶ名小屋敷線)について

a 現在の事業区間の進捗状況について伺う

b 事業上の問題点や課題があるか伺う

c 現状の交通量について伺う

(イ) 豊田地区の国道150号、市道三ヶ名小屋敷線、一般県道大富藤枝線、市道焼津中央高校線で囲まれた地区内の交差点では渋滞が生じて、生活道路を抜け道

として利用しているが、どのように認識しているか。

交通事故防止について伺う

2 瀬戸川保福島親水公園について

(1) 事業進捗と今後の事業拡大について

ア 平成31年度張芝工事が計画されているが、32年度以降の予定を伺う。

(ア) 静岡県との調整具合について

a 実施設計について伺う

b 工作物の設置時期について伺う

c スベリ台の設置について伺う

d 堤防道路の車両安全対策について伺う

(イ) 部分的な供用開始は可能か伺う

イ 工事完了予定年度はいつ頃か伺う

ウ 下流域の樹木伐採、河川掘削に伴う高水敷の遊歩道整備の拡大は可能か伺う

(2) 整備方法について

ア スポーツ施設と一体となった親水公園について伺う

(ア) 総合グラウンドとの動線整備について伺う

(イ) スポーツ施設利用者による公園利用について伺う

(ウ) 公園利用者の総合グラウンド駐車場、トイレ等の利用について伺う

イ 親水公園近隣の耕作放棄地の利用について伺う。

(3) 治水対策について

工事期間中のゲリラ豪雨などによる自然災害の対策はどのように考慮しているか伺う

6 杉田源太郎 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求めるもの 市長、教育長

障害者福祉の充実を

(1) 障害者雇用問題

昨年国の障害者雇用水増し問題から焼津市の状況について9月4日全員協議会で市職員の障害者雇用について報告があった。6月1日現在実際は24人の障害者を雇用しているが、このうち4人は重度（厚生労働省のガイドラインに基づき、重度障害者は1人当たり2人分として国に報告。このため、28人を雇用している計算になる。）

ア 法定雇用率確保に向けての取組について

(ア) 重度以外20人中障害手帳所持者は7人とのことだが、法定雇用率2.5%を大きく下回る。法定遵守に向けて現状と取り組みはどのようになっているか

(イ) 28人の雇用とすると雇用率2.57%となると正規職員数は約1090人となる。法定雇用障害者数の算定の基礎となる職員の数はどのようにして決めるのか

イ 民間企業の取組

雇用率達成している企業、していない企業の業種はどのような傾向か

達成していない企業への指導はしているか

(2) 重度心身障害者（児）医療費助成制度

ア 県への要望について

11月議会深田議員一般質問に対する答弁で「中軽度の精神障害者についてその補助基準対象の充実に向けて要望をしている」とのことだった。その後進展具合はどうか

イ 自動償還払い実績

窓口負担（数ヵ月後の自動償還払い）をなくす（現物給付）については「県内33市町全てが一旦病院窓口で医療費支払いをしている。市単独で現物給付は困難」との答弁だった。直近の実績で自動償還払いとなった件数と金額はいくらで最高額はいくらか

ウ 現物給付県への要求

年金生活者や低所得層の多い国保被保険者にとっては一時立替であってもその負担は大きい。県に現物給付制度を求めてもらいたいとして質問を終わったが県に対して要求してもらったか

エ 所得制限をなくす

所得制限をなくすことについて

所得制限で医療費の助成を受けられない人工心臓手術を受けた方から手紙をいただいた。奥さんと小学生のお子さんの3人家族、心臓提供者が決まるまで順番でまだ7～8年はかかるといわれている。人工心臓が不具合となった場合本人がすぐ予備の人工心臓の交換作業はできないことから一定の講習を受けた家族が常時アラーム音の聞こえる範囲にいないといけない。バッテリー切れ、機器の不具合は命に直結する。定期的に機器含め診療を受けていかななくてはならない。継続的に職場が確保できていくかの不安も当然あると思う。昨年手術を受けてから毎月東大病院への受診検査、2年前から県立総合病院でも診察ができるようになりここでも診察を受けている。3月以降静岡での診察になり若干負担軽減となる。

人工心臓維持管理・医療費は月約45万円、自己負担限度額は所得区分によって変わるがこの方は区分（イ）で毎月の診療で最初の3ヶ月は約15万円4ヶ月目から「多数該当」適用で9万3000円となる。

平成29年度4月1日現在県内6市町で所得制限をしていない。焼津市では県同様扶養親族等の数、本人の所得額、配偶者及び扶養義務者の所得額によって限度額を決めている。直接命に係わり、長期に続けなければならない高額医療は本人のみならず家族にとっても心身ともに大きな不安と負担を強いられる毎日となる。6市町に倣い所得制限をなくしていくことを求める

(3) 視覚障害者等への情報提供について

ア 視覚障害者への情報提供

障害者福祉の問題で今までにも何回か質問してきた。視覚障害者への市の情報提供がボランティアによって行なわれている。本来これらの仕事は「市の業務」ということでいいか

イ 学校からの情報発信

児童、生徒の保護者が障害者である場合、学校からの情報はどのように発信しているか。その必要性を認識しているか

ウ 音訳情報の利用

ボランティアによってさまざまな情報（広報だけでなく朗読や地域新聞等々）が音訳されている。これらは視覚障害者だけでなく利用できる場所を検討したことがあるか

エ ボランティアの継承

音訳ボランティア含めボランティアの高齢化も進んでいる。若い世代が直接・間接的に障害者と接することで焼津市の障害者福祉を前に進めることができると思う。ボランティア経験の機会を作るための企画もされている。継続的持続的にその芽を育てるためどのような施策を行なっているか

7 渋谷英彦 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求めるもの 市長

1 新元気世代プロジェクトについて

新元気世代プロジェクトの取組について

現役世代を含む壮年からご高齢の皆さんを「新元気世代」とし、社会生活を通じて得た体験や知識を持った市民がいつまでも生き生きと生活することができるように、その世代に向けた、生きがいつくりや健康づくりなどにつながる、様々な活動機会の提供に取り組む「新元気世代プロジェクト」について伺う。

(ア) プロジェクトの目的と取組の方向性（将来ビジョン）について伺う

(イ) 平成30年度にモデル事業を実施しているが、結果はどうか

(ウ) 生きがいつくりとして、文化・芸術活動や、スポーツ体験などの取組も考えられるが、平成31年度は、具体的にどのような事業展開を考えているのか伺う

(エ) 焼津ダイヤモンド構想では、大井川庁舎周辺を「いきいき拠点」とし、市民の健康や余暇活動などの健康・福祉機能を形成する「健康ゾーン」整備を掲げているが、新元気世代プロジェクトとの関連について伺う

(オ) この取組を市民に広く周知することが重要であるが、どのような啓発をしていくのか伺う

2 風しん対策について

風しんの感染拡大防止対策について

昨年の夏以来、首都圏を中心に風しんが流行し、昨年の累計患者数は、一昨年の30倍に達しているとの報道があり、現在29～42歳の人是最も感染の危険が高いと言われている。風しんは、風しんウイルスを原因とし、発熱や発疹、リンパ節の腫れを主症状とする感染症です。別名「三日はしか」の名前でも知られている感染力が強いとされている感染症で、妊娠初期の女性が感染すると、胎児への障害が起こる可能性があり、スピード感を持った対策が必要と考えるが、焼津市の対策について伺う。

(ア) 現在の患者数の状況はどうか

(イ) 抗体検査や予防接種について、現在の対策はどのようなになっているのか伺う

(ウ) 今回の流行を受け国は緊急対策を講じると発表しているが、焼津市の対応に

ついて伺う

3 認知症対策について

焼津市の認知症対策について

今後の高齢化の進展に伴いこれまで以上に認知症の人が増えていくことが予測されることや、高齢化に伴う認知症の人への対応が世界共通の課題となっていることを受け、厚生労働省は関係省庁と共同で「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」を平成27年1月27日に公表した。2025年には、高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦のみの世帯が更に増加し、認知症の人の割合は5人に1人になることが見込まれております。そこで、焼津市の認知症対策について伺う。

(ア) 認知症の早期発見と早期対応について伺う

(イ) 地域全体で認知症の人を支えるためには、認知症への理解を深めることが必要であるが、そのための普及・啓発の取組について伺う

(ウ) 認知症の人が行方不明となった際の、早期に発見できる体制づくりについて伺う

(エ) 認知症の人を抱える家族の負担軽減対策について伺う

(オ) 認知症の人が可能な限り住み慣れた地域で生活できるよう、地域密着型サービスの充実を図るため認知症対応型共同生活介護施設の整備が計画されているが、現状と施設整備に向けた考え方について伺う

8 内田修司 議員（質問方式 一問一答）

答弁を求めるもの 市長

1 焼津市移住定住促進施策について

日本では人口減少社会となり、特に地方都市では人口が減少し続けるとともに少子高齢化の影響で高齢者の割合が増え、若者の割合が減っているという状況です。本市においても、全国的な傾向に加え、東日本大震災以降、社会減が多くなりましたが、市の様々な施策により、近年は社会減は少なくなりつつあります。その一方で自然減の影響による人口減少が進んでいる状況だと思います。こうした状況の中、焼津市としては新たに市内に住んでくれる若者家族向けに若者世帯定住支援奨励金事業を今年度まで展開しています。これまで行われてきたこの事業と来年度以降で行われる同様の応援事業などについて伺います。

(1) 若者世帯定住支援奨励金事業について

ア 若者世帯定住支援奨励金事業の実績として、どの程度の家族がこの事業を利用したのかを伺います

イ これまで継続して4年やってきたこの事業について市としてどのように評価しているかを伺います

(2) 子育て世帯マイホーム取得応援事業について

ア 来年度は新たな事業を予定されているようですが、その事業の基本的な考え方と主な変更点、新たに始める内容などについて伺います

イ この事業の広報はどのように行うのかを伺います

(3) Uターン就職者の応援について

大学進学においては焼津市を出て、関東圏などに下宿する大学生も多いと考えられます。その一部は奨学金をもらって勉学に励むといった選択をしている学生もいると思いますが、奨学金は一部を除き借金であり返済の義務があります。これらの焼津市以外に出ていった学生がUターンで戻ってくれることはその後の地域社会において大きなメリットがあると思います。そこで以下を伺います。

ア 焼津市内で高校を卒業し、大学進学に当たり一度都会などに下宿する学生は例年どの程度いると把握されているか伺います

イ そのうち、Uターンで戻ってくる率はどの程度か伺います

ウ Uターンしてくれる新卒社会人に何らかの補助をすることはできないか伺います

2 高齢者の交通安全対策について

昨年の焼津市内で起きた交通死亡事故は7件あり、そのうちの4件は高齢者の方が関わるものでした。また、今年に入り2件の同様な交通事故が発生しております。

人口における高齢者の割合が増えており、高齢者が関わる交通事故の増加は全国的なものであり、特に焼津市が特別ということではないと思いますが、それにしても高齢者の交通事故は多くなっていると思いますし、死亡事故になるのはあまりに痛ましいことだと思います。

事故の詳細な原因は個々の事故で異なるとは思いますが、また、身体機能の低下といった高齢者特有の原因というものがこれらの交通事故にも関係しているのではないかと考えています。それらを受けて高齢者の交通安全対策について伺います。

ア 高齢者の交通事故の割合が増えている現状に対して、市としてはその予防という観点でどのような取り組みを行っているかについて伺います

イ 死亡事故が発生した場合における関係機関との連携について伺います